法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-03-14

研究展望(平成12年)

西野，春雄 / 今泉，隆裕

(出版者 / Publisher)
The Nogami Memorial Noh Theatre Research Institute of Hosei University / 法政大学能楽研究所
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
Nogaku kenkyu : Journal of the Institute of Nogaku Studies / 能楽研究 : 能楽研究所紀要
(巻 / Volume)
28
(開始ページ / Start Page)
109
(終了ページ / End Page)
117
(発行年 / Year)
2004-04-10
(URL)
https://doi.org/10.15002/00003030

Hosei University Repository

研究展望（平成十二年）

西野春雄
今泉隆裕

執筆担当者の変更などいろいろな事情があったとはいえ、平成十六年（二〇〇四）春発行の紀要に平成十二年（二〇〇〇）の研究展望を載せるのは、まことに恥ずかしい次第であるが、新世紀直前の二〇〇〇年にどのような図書が出版され、どのような研究論文が発表されたかを整理すべく、ここでは記録の意味を込めて、能楽関係刊行図書の紹介と、主な論考、調査・考証などを中心に述べることにしたい。

ここ数年、硬軟とりまぜて、さまざまな能楽関係図書の出版があいついでいる。優れた成果を世に問うた注目すべき本もあり、また能や狂言の演者自身による本も多数出版されている。これらの本には、演者ならではの修業や経験から生まれた言葉や発見があり、おおいに啓発される。

一方、研究論文は、まず膨大な発表点数に驚く。とり扱うテーマも広がり、多様な視座からの論もあり、実に、多種多様な論考や調査結果が発表されている。通説の見直しを迫る画期的な論考もある。一方で、そうでないものもある。

本稿では、なるべく漏らさず目を通そうと心がけたが、とてもすべてには及ばない。したがって、今回、取り上げた図書にしても論考にしても、その一部であることを、あらかじめお断り申し上げる。なお、本稿は、関連資料の収集と整理に法政大学大学院博士課程後期在学の今泉隆裕が担当し、西野と今泉が協議しつつ執筆した。

〔単行本（含、シリーズ物）〕

「一期初心―能楽者森羅万象―」（観世清和著。淡交社。1月。A5判157頁。二五〇〇円＋税）

雑誌［SIGNATURE］平成六年十月号から平成十年六月号に連載され評判になったエッセイ「能役者森羅万象」に加筆・訂正し、全体を「序・破・急」に構成して収める。「家督を継ぐ」「父の思い出」「能楽界のこと」など。後半には〔能の姿〕〔対談〕のほか『別冊国文学』48より「能楽鑑賞の手引き」を抜粋・再録する。なお増田正造氏の書評（『観世』12年3月）があり、羽田昶氏の書評（『能楽タイムズ』12年5月）がある。

『週刊朝日百科 世界の文学28 能・狂言・風姿花伝』（松岡心平編著。朝日新聞社。1月。A4判32頁。五二三円）

Hosei University Repository

世阿弥・金春禅竹に焦点をあて、豊富なカラー写真を用い、能・狂言・田楽などが芸を競い花を咲かせた中世の「芸能の饗宴」の姿を描く。

『能と義経―シテが語る―』（桜間金記著。光芒社。2月。B6判243頁。二五〇〇円）

義経の生涯をたどりながら、能の作品を解説する。第一章・鞍馬天狗、第二章・橋弁慶、第三章・船弁慶、第四章・安宅、第五章・八島、第六章・能と現代。独協大学ほかでの講義録などを基に、能楽案内としてまとめたもの。シテの観点から語り進めるのが特色で、前例のない能楽手引き。

『能楽と中国の古芸能・信仰』（葉渓鑫著。勉誠出版。2月。A5判305頁。一三三〇〇円）

著者は学習院大学東洋文化研究所客員研究員、同大学非常勤講師をつとめながら、中国と日本の芸能の比較研究に従事、「中世芸能と中国の古芸能・信仰の比較研究」のテーマで学位を授与。本書はこの学位論文。「能楽と中国」「謡曲に現れる道教の神仙思想」「能舞台の「鏡松」中国の神仙思想」「謡曲における「草木成仏」曲の構想と道教思想」など。

『能の多人数合唱：No Choruses and Choral Singers』ひつじ研究叢書芸能編2（藤田隆則著。2月。A5判322頁。一、〇〇〇円＋税）

「地謡」の存在を真正面から問いかけ、いかなる過程を経て今日の姿が形成されたかを微密に立証した魅力的な本。大阪大学に提出された学位論文が基になっている。構成は、序章多人数合唱（〈同音〉と〈地〉）への視線、第一章世阿弥は「同音」という指示をだれに向けていたか？、第二章世阿弥時代の多人数合唱の分類、第三章「同音」から「地」へ――呼称の変遷が意味するもの、第四章「地謡」から「居座の歌い手」へとさかのぼる、第五章ワキは多人数合唱にどのようにかかわってきたか？、第六章ツレは多人数合唱にどのようにかかわってきたか？、第七章シテは多人数合唱にどのようにかかわってきたか？、から成り、「結び」で「地謡はもともと存在しなかった（名称がなかった）が、伝承の過程で、しだいに規模が大きくなり、一役として定着し、重要性も高まった」と結論する。高桑いづみ氏の書評（『楽劇学』第八号、13年3月）があり、山中玲子氏の書評（『東洋音楽研究』第67号、14年8月）がある。

『芸能の中世』（五味文彦編。吉川弘文館。3月。A5判309頁。六〇〇〇円＋税）

「歴史の転換期には芸能も大きな変貌を遂げる。芸能という視点からすれば、中世の政治や社会文化、また人々の思いはどのように見えてくるのだろうか」と問いかけ、中世を代表する芸能をとりあげる。能楽関係では、坂井孝一「能」龍太鼓」と中世―歴史学的視覚による作品研究の試み」を収める。

『夢浮橋』（国立能楽堂事業課・調査養成課編。日本芸術文化振興会。3月。一〇〇〇円）

平成12年3月の特別企画公演、新作能〈夢浮橋〉初演に際しての出版物。梅原猛〈エロティシズムと宗教〉・瀬戸内寂

Hosei University Repository

聴〈新作能「夢浮橋」について〉・梅若六郎〈「夢浮橋」の演出・主演に際して〉ほかを収める。

『金沢能楽会百年のあゆみ　上　番組集成』（金沢能楽会設立百周年記念事業実行委員会編。社団法人金沢能楽会。3月。B5判630頁）

金沢能楽会設立百周年を記念し、明治34年設立以来の同会の能番組を集成した労作。内容は、Ⅰ金沢能楽会定例能番組集成・Ⅱ金沢能楽会記念能、別会能等番組集成・Ⅲ金沢能楽会慈善能番組集成、から成り、巻末に人名索引・演目索引・演奏形態別演目一覧を付す。

『講座日本の伝承文学8　在地伝承の世界　西日本』（福田晃ほか編。三弥井書店。3月。A5判379頁。五八〇〇円）

能楽関係では真下美弥子「京の小町伝説と御霊信仰―能『通小町』生成の基層」、小林健二「畿内の一人翁」を収載。

『壬生狂言』（壬生寺編・井上隆雄写真。淡交社。3月。B6判127頁。一三〇〇円）

副題「ハンディ鑑賞ガイド」。〈桶取・愛宕詣・大江山・大原女・餓鬼角力・蟹殿〉などを収める。

『現代能楽師論』（長尾一雄著。能楽書林。4月。B6判309頁。二〇〇〇円＋税）

能楽評論家長尾一雄氏が『能楽タイムズ』誌に連載された現代能楽師論の一部をまとめたもので、著者没後の二周年目の刊行。「人間性に賭ける　野村万之介」「精神の技術による古風を　本田光洋」「内面と表面の二重の動き　豊嶋三千春」「戦いつつある鼓の音　敷村鐵雄」など六十編。跋は堂本正樹氏「流れを受けとめて」。

『軍記文学とその周縁』（軍記文学研究叢書1〈梶原正昭編。汲古書院。4月。A5判295頁。八〇〇〇円）

能楽関係の論考に、山中玲子「軍記文学と芸能・演劇　平家の能をめぐって」を収める。

『我忘吾―二世金剛巌舞台写真集―』（金剛永謹監修。金剛君子発行。八宝堂発売。4月。変型A4判162頁。七〇〇〇円）

「我忘吾（がぼうご）」とは「われ　われをわする」の意。『荘子』の言葉で、金剛宗家の秘伝書の名称の由。平成十年八月一日、七十三歳で逝去された二世金剛巌氏の舞台写真集で、詳しい演能年譜も貴重。

『NHK日本の伝統芸能』（日本放送協会・日本放送出版協会編。日本放送出版協会。4月。A5判176頁。九六〇円）

二〇〇〇年4月～二〇〇一年3月放送の〈やさしい能狂言鑑賞入門〉の鑑賞講座（奥根祥六・山本東次郎）を収録。ほかに、星田良光・秦恒平・柳沢新治・三浦裕子・高桑いづみ・石井倫子氏の諸論を収める。

『和泉流狂言六義抜書　翻刻と解題3』（野崎典子編。名古屋女子大学文学部野崎研究室。3月。A5判68頁）

和泉流十八世元康旧蔵、井上礼之助氏所蔵、『和泉流狂言抜書』の翻刻。本書は、天理本・和泉家古本とは異なる本で、収録曲数はそれらより多い。

Hosei University Repository

『日本の芸術論—伝統と近代』（神林恒道編。ミネルヴァ書房。4月。A4判四〇八頁。五五〇〇円）

能楽関係の論に、天野文雄「〈忠度〉を読み解く—能における「作意」の把握をめざして—」がある。

『黒川能狂言百番』（写真＝渡辺国茂、曲目解説＝重田みち・正田夏子。小学館。4月。A5判255頁。三五〇〇円）

黒川能に魅せられた渡辺国茂氏が二十五年にわたって撮影した写真記録に解説を付す。大地踏・式三番・初番目物—19番・二番目物—29番・三番目物—21番・四番目物—23番・五番目物—5番、狂言30番。ほかに馬場あき子・小林責・渡辺氏の諸論を収める。付録「王祇祭のながれ—「黒川能上演史」」。大谷准氏の書評（『能楽タイムズ』579。12年6月）がある。

『近世能役者研究の基礎資料　翻印四十種と総合名鑑二種1』（表章編。演能記録調査研究グループ。4月。A4判397頁）

平成八～十年度科学研究費補助金（基盤研究〔A〕（1））「近世以前の能役者の総合的研究」研究成果報告書（研究代表者・表章）。近世能楽史研究に有益な基礎資料である。

『桜木物語』（山下実著。三一書房。4月。A4判243頁。一八〇〇円＋税）

副題「大江戸写楽失踪事件」。東州斎写楽の謎に迫る小説。虚構の物語。

『中世文学の諸問題』（新典社研究叢書28）（松本寧至編。新典社。5月。A5判237頁。六〇〇〇円）

能楽関係では石黒吉次郎「能「盛久」と仏教」、李珍鎬「謡曲の引歌表現を考え直す」を収める。

『弘安番札礼の研究』（百瀬今朝雄著。5月。東京大学出版会。A5判338頁。六八〇〇円）

副題「中世国家社会における家格の桎梏」。能楽関係の論考に、世阿弥の伝記に大きくかかわる『良基消息詞』を偽文書と論及した「二条良基書状—世阿弥の少年期を語る—」を収める。

『日本古典音楽探究』（蒲生郷昭著。出版芸術社。5月。A5判592頁。一〇〇〇〇円）

第二部〈芸能の相互関係のなかでとらえる〉のうち〈雅楽が他の芸能・音楽に及ぼした影響について—音楽面を中心に—〉〈地歌が接取した能詞章〉の各項、第三部〈多声部構造の楽曲を解析する〉のうち〈道成寺物の音楽—能「道成寺」・長唄「紀州道成寺」・歌舞伎音楽「京鹿子娘道成寺」—〉〈獅子物音楽—能「石橋」と長唄「英執着獅子」—〉の各項など、能楽に関連する論も多い。なお久保田敏子氏の書評（『楽劇学』第八号、13年3月）がある。

『対訳でたのしむ道成寺』（三宅晶子著。ほかに各冊に観世流シテ方河村晴久氏の文章「各曲の舞台」を収める。檜書店。5月。A5判26頁。各冊五五〇円＋税）

『対訳でたのしむ羽衣』（三宅晶子著。檜書店。5月。A5判24頁）

『対訳でたのしむ井筒』（三宅晶子著。檜書店。5月。A5

Hosei University Repository

判24頁）

『対訳でたのしむ安宅』（竹本幹夫著。檜書店。5月。A5判40頁）

『対訳でたのしむ高砂』（竹本幹夫著。檜書店。5月。A5判30頁）

『対訳でたのしむ天鼓』（三宅晶子著。檜書店。8月。A5判28頁）

『対訳でたのしむ葵上』（三宅晶子著。檜書店。8月。A5判26頁）

『対訳でたのしむ安達原・黒塚』（竹本幹夫著。檜書店。8月。A5判28頁）

『対訳でたのしむ鉄輪』（竹本幹夫著。檜書店。8月。A5判24頁）

『対訳でたのしむ清経』（竹本幹夫著。檜書店。8月。A5判28頁）

「初めて能を見る人が気軽に手に取ることができるような一番綴謡本の体裁で」「難解な謡がわかりやすい現代語に翻訳されており、知りたいこともちゃんと書いてあって、そのうえ値段が安い」本をめざしたという（『観世』、12年5月号）、「対訳でたのしむ」シリーズの第一、第二弾。

『舞終えて』（白洲正子著。ワイアンドアイ。5月。A5判320頁。二三〇〇円＋税）

著者没後に遺された草稿や単行本未収録エッセイを随想篇と能楽篇にまとめたもので、能楽篇に能のデッサン、能の変身性について、などを収める。

『新「ノー」と言わない能』（村木泰仁著。能楽ジャーナル。6月。四6判240頁。二〇〇〇円）

著者は医師で観世流名誉師範。能を通して日本人の精神文化にも論及する。

『謡曲物語』（和田萬吉著。白竜社。6月。A6正寸1086頁。九八〇〇円＋税）

冨山房版（大正十一年八月刊）の復刻訂正版。本書の原版初版は明治四十五年（前編）と大正二年（後編）に同じく冨山房から出版された菊判の美麗な装丁本。挿絵に久松家伝来の能絵ほかを収め、こよなく能楽を愛した著者による格調高い名文とあいまって、謡曲物語としては出色だった。大正版は持ちやすい小型本にしたもので、今回の復刻で名著が甦ったことを慶びたい。

『源氏物語研究集成14（源氏物語享受史）』（増田繁夫・鈴木日出男・伊井春樹編。風間書房。6月。A5判379頁。五八〇〇円）

能楽に関する論考に、外村南都子「能の世界と源氏物語―先行歌謡の早歌との関連から」がある。

『能楽史事件簿』（横浜能楽堂編。岩波書店。6月。B6判271頁。二二〇〇円）

平成十一年から平成十二年まで六回にわたり開講された横浜能楽堂公開講座「能楽史事件簿」を基に再構成したもの。第一講：義満、世阿弥を寵愛す（馬場あき子・松岡心平）／第

Hosei University Repository

二講：能に溺れる秀吉（津本陽・竹本幹夫）／第三講：元禄繚乱―綱吉と能（竹本幹夫・中島丈博）／第四講：江戸はお稽古ブーム（竹本幹夫・水原紫苑）／第五講：能役者・写楽（表章・篠田正治）／第六講：維新に揺れる能役者（西野春雄・山田智彦）。聞き手＝葛西聖司。

『謡曲百番『浮舟』（特製本）の印出字調査』（私立大学図書館協会関西地区部会阪神地区協議会書誌学研究会。6月。A4判106頁）

関西大学図書館所蔵「謡曲百番『浮舟』（特製本）」の調査記録。

『叢書・文化学の越境7 鬼と芸能 東アジアの演劇形成』（松岡心平編。森話社。7月。B5判254頁。二六〇〇円＋税）

能楽関係の論考に、鈴木正崇「追儺の系譜―鬼の変容をめぐって」、横道萬里雄「日本芸能の特質」、天野文雄「古作の能（小林）成立の背景―足利義満の明徳の乱処理策との関連をめぐって―」、松岡心平「毘那夜迦考―翁の発生序説」がある。いずれも刺激に富む論で、とくに今後、翁を考えるには必読の本であろう。

『狂言台本を主資料とする中世語彙語法の研究』（小林賢次著。勉誠出版。7月。A5判469頁。一六〇〇円）

狂言台本を主資料とし、その他中世から近世にかけての口語文献を資料として、語彙・語法の面から、近代語成立過程期における史的変遷の様相を考究した労作。

『芸能・文化の世界 シリーズ近世の身分的周縁2』（横田冬彦編。吉川弘文館。7月。B6判312頁。二九〇〇円）

能楽関係の論考に、毛利美和「能役者」（1彦根藩における能楽享受・2御抱役者の身分と職分・3素人役者・他所者役者の役割・4幕府役者との関係）を収める。

『浄蔵貴所集成』（室山源三郎編。古川柳電子情報研究会。7月。A5判121頁。非売品）

番外曲「浄蔵貴所」に関する貴重な資料も集成されている。

『ようこそ能の世界へ―観世鐵之亟 能がたり』（観世鐵之亟著。暮らしの手帖社。7月。A5判252頁。二四〇〇円）

雑誌『暮しの手帖』Ⅲ世紀73号～87号に連載された「観世鐵之亟 能がたり」に、新たな章〈鐵之亟のこと 私のこと〉を加えてまとめた好エッセイで、遺著となった。〈ようこそ能の世界へ〉〈能はミュージカルのようなもの―囃子と謡―〉〈前後左右から無限に引っ張られて立つ存在感―演技について―〉〈能と歌舞伎―娘道成寺・安宅と勧進帳―〉など14章から成り、舞台写真は昭和45年～平成12年、著者の演能のなかから厳選している。

『朝倉氏と戦国を生きた芸能者たち』（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編。7月。A4判74頁）

平成12年7月から9月まで開催された第11回企画展の展示図録。

『奥浄瑠璃集成（一） 伝承文学資料集成第十輯』（福田晃ほか編著。三弥井書店。7月。A5判348頁。八五〇〇円）

真下美弥子「竹生島弁才天由来記」（斎藤報恩会蔵）などを

Hosei University Repository

収める。

『金剛家の面』（金剛永謹編著。玉川大学出版局。8月。B4判250頁。三五〇〇円＋税）

金剛流二十六世宗家継承記念出版。金剛家秘蔵の面から室町時代の面を中心に、是閑・河内など桃山・江戸初期の優品（九十八面）を、表裏ともに原寸カラーで収録する。ほかに明和七年の古文書に文政十一年金剛直勝が補筆した「面の書」（一部）を影印で収載。保田紹雲氏の書評（『能楽タイムズ』591。13年6月）がある。

『横山柚人の歳月　近代能楽研究の先達』（坂田昭二著。伊藤正義編。坂田泰発行。9月。B5判125頁。非売品）

明石の旧家に生まれ、在野から明治・大正・昭和の能楽研究に多大の功績を残しながら、没年もわからず忘れられていた横山柚人について、著者は、その足跡や業績を追跡しつつ平成十年に急逝した。〈明石のセンニン横山柚人のこと〉〈近代能楽研究の先達　横山柚人の歳月〉〈横山柚人年譜（1）～（11）〉〈先達あらまほし―横山柚人の書き残したこと　〉からなり、『芸能史研究』『宝生』『観世』『金剛』の各誌への発表稿（平成四～八年）を夫人がまとめた。

『愚―思い出すまま』（今井泰男著作・発行。わんや書店製作・発売。9月。頒価三〇〇〇円）

宝生流の重鎮今井泰男氏が主宰する。「玉華会」五十回と傘寿を記念しての自伝。Ⅰ自伝…思い出すまま（一）～（六）、Ⅱ随話…〈海外演能の思い出〉など十三篇から成る。

『THE ARTS HONAMIKOETSU』（文化財保護部美術工芸課編。9月。フィラデルフィア美術館。A4判変型大本220頁）

平成12年7月29日から10月29日まで、同館で開催された文化庁主催海外展「本阿弥光悦」展の図録。

『古典講演シリーズ6　軍記物語とその劇化―「平家物語」から「太平記」まで』（国文学研究資料センター編。臨川書店。10月。B6判226頁。一二〇〇円）

能楽関係の論に、山中玲子「〈講演〉あの世から振り返って見る戦物語」、原道生「「歴史」確認のドラマ―知盛と実盛」を収める。

『アポロンにしてディオニソス橋岡久馬の能』（文／多田富雄・写真／森田拾史郎。アートダイジェスト。10月。A5判149頁。三二〇〇円）

能楽界の鬼才橋岡久馬の風姿と芸を伝える本。

『伊勢物語と芦屋』（芦屋市立美術博物館展覧会図録（片桐洋一編。芦屋市立美術博物館。10月。A4判222頁）

平成十二年十月二十八日から十一月二十六日まで開かれた特別展の図録で、「光悦謡本」ほか能楽関係資料も多く載っている。

『能の友シリーズ　葵上』（川西十人著。白竜社。10月。四六判48頁。各冊一〇〇〇円）

『能の友シリーズ　田村』（川西十人著。白竜社。11月。四六判47頁）

Hosei University Repository

『能の友シリーズ　船弁慶』（川西十人著。白竜社。12月。四六判47頁）

俳人で宝生流の能に明るい著者による、親しみやすい物語と、豊富なカラー写真が特色。「謡蹟紀行」を収載する。

『鷺流狂言の流れをたどって』（国立能楽堂事業課編。日本芸術文化振興会。B5判24頁。五六〇円）

平成十二年十月二十八日に行われた国立能楽堂特別企画公演のパンフレット。

『能の女たち　文春新書139』（杉本苑子著。文芸春秋。11月。新書判211頁。六八〇円）

清経・黒塚・恋重荷・羽衣・鉢木・鉄輪・海人・松風・籠太鼓・隅田川・藤戸・山姥の十二曲をとりあげる。

『岩崎久人「面ヲ打ツ」』（菅佐原智治著。アーテックス博進堂。11月。A5判92頁。三〇〇〇円）

能面作家岩崎久人氏による、名作の「写し」と創作面の写真集。山崎有一郎氏ほか諸氏の文章も収める。

『狂言じゃ、狂言じゃ！』（茂山千之丞著。晶文社。11月。B6判224頁。一八〇〇円）

かつて『狂言役者―ひねくれ半代記』（岩波新書）を著した論客茂山千之丞氏の、狂言入門書にあらず「狂言出門書」とでもいうべき本。

『能楽ハンドブック　改訂版』（戸井田道三監修・小林保治編。三省堂。11月。A5判280頁。一八〇〇円）

「能を百パーセントわかるための案内書として」平成5年6月に刊行された本の改訂版。

『狂言ハンドブック　改訂版』　小林責監修・油谷光雄編。三省堂。11月。A5判265頁。一六五〇円）

「『狂言』のすべてがわかる小事典」として、平成7年11月に刊行された本の改訂版。中世庶民の生活について述べた油谷光雄氏の「狂言の風景」などが面白く、一気に読ませる。

『松本恵雄舞姿百撰』（小林保治・佐藤拓夫編。比松会。11月。B4判182頁。一二〇〇〇円）

宝生流の名手松本恵雄氏の貴重な演能写真、五九曲、一四六点を収める。詳しい年譜も有益。私家版。限定四百部。

『軍記文学研究叢書12　軍記語りと芸能』（山下宏明編。汲古書院。11月。A5判239頁。八〇〇〇円）

能楽関係の論考に、竹本幹夫「能・狂言と軍記および戦語り」、藤田隆則「楽劇としての修羅能―「平家の物語」を演じる」を収める。

『江戸時代の能』（国立能楽堂調査養成課調査資料係編。日本芸術文化振興会。B5判40頁。七〇〇円）

平成十二年十一月十七日から十二月十五日まで開催された国立能楽堂二〇〇〇年特別展示の図録。展示資料の写真のほかに、表章「江戸時代の能」を収める。

『能って、何？』（松岡心平編。新書館。12月。A5判267頁。一八〇〇円＋税）

曲・人・時・場・鍵・how to の六部構成。名作68曲の物語の見どころ、友枝昭世・梅若六郎・浅見真州・野村萬斎の

Hosei University Repository

四氏へのインタビュー、能の歴史、能舞台や装束・楽器ほかを解説。27のキーワードによる能解説と能を見るためのアドバイスも。堂本正樹氏の推薦(『能楽タイムズ』588。13年3月)がある。

『能面の彩色』(高津鉱一著。玉川大学出版部。12月。A4判156頁。一九〇〇〇円+税)

江戸時代の名工たちが打ち、伝えた能面九作を原本として、その色彩の行程を写真によって紹介する。古面提供、能楽資料館。

『徳川義直と文化サロン』(徳川美術館。A4判234頁)

開館65周年記念・尾張家初代義直生誕四〇〇年を記念し、平成12年9月23日から11月5日まで開催された秋季特別展の図録。184点のうち光悦謡本(上製本)など、能楽関係の資料も収める。

(以下、次号へ)